

## 【群盲、象を撫でる】

昔、ある国の王様が、盲人たちに象を撫ぜさせてみて、自分が感じ取った象の形状を、それぞれ発表させました。すると、象の脚を撫でた盲人は、「象とは柱のような形をしたものだ」と言い、象の耳を撫でた盲人は、「象とは大きな団扇のようなものだ」と言い、象の尾を捜った盲人は「蛇のようなものだ」と言い、脇腹を撫でた盲人は「壁のようなものだ」と言った、ということです。

この話は、仏典にある寓話だそうですが、盲人たちはそれぞれ、自分の実際の体験に基いて主張しているという自覚が強いだけに、自分の意見だけが正しくて、他の意見は疑問の余地もなく誤っていると確信しており、その故に盲人たちは自己主張のみして決して譲ろうとしなかった、という点に問題があることを語っています。

勿論、自分の撫でた所は、象のほんの一部分に過ぎない、という自覚があるならば、自分だけが正しい判断をしていて、他は皆間違っている、とは強く主張できるものではありません。他の主張にもきつと耳を傾けるに違いありません。

ところが、盲人ですから全体をとらえることが出来ず、自分の撫でた所が全体だと信じ込んでいるものですから、他の主張に耳を傾けるような余裕ある考え方が出来ないわけです。目明きなら決して犯すこ

とのない誤りに、盲人なるが故に陥りやすい、というわけです。

象の場合は、目明きと盲人とでこのような違いがありますが、事件の判断ということになりますと、目明きだからと言って事件の全貌が見えるわけではありません。なまじ見えるだけに部分にとらわれて、判断を誤る恐れが大いにあります。この諺の真意はそこにあるのだと思います。

さて、群という字は羊と君とで作られています。古い中国語では、“むれ”という意味を表わす言葉を“クン(グン)”と発音しました。その発音を表わす“君”と、いつも“むれ”をなして生活している“羊”とを組合せて作った、このような成り立ちの漢字を“形声字”と言います。

形声字は、意味を示す部分と、発音を示す部分とで成り立っていますから、羊から“むれ”という意味、君から“グン”という発音というように、分解して理解することが出来ます。

盲という字は亡と目とで作られています。亡の上の部分“一”は昔は人で、亡は𠄎という字でした。人が物かげに隠れて、「人が見えない」「人を見失う」ことを表わした字です。

盲は、目と亡とで、「目を失う」という意味を表わしたものです。このような成り立ちの漢字を“会意字”と言います。意味を会わせるという言葉です。亡は盲の発音をも表わしていますから形声字でもあります。